

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西 区
学 校 名	明治小学校
学校長名	酒居 国宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・明治小学校では、第6学年 54名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和3年度の調査結果においては、本校の学力について国語・算数ともに平均正答率で全国の前年を上回り学力課題の改善が見られる結果となった。国語では、特に書くことに関する課題の正答率において、全国平均値を7～10ポイント上回る結果であった。また、算数では、特に数と計算、データの活用に関する課題の正答率において、全国平均値を1ポイント以上上回る結果であった。本校の学力向上に向けた取り組みの成果と考えている。児童質問紙の結果からは、自尊感情の高揚や課題解決に向けて粘り強く努力する態度の育成について課題があることがうかがわれた。しかし、学校生活を肯定的に受け止める傾向や話し合い活動に対して好意的に捉えている傾向も見られるので、今後、言語活動の充実に向け希望を持つことができる結果と受け止めている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

本校の平均正答率は、全国平均値を3ポイント以上上回る結果であった。特に書くことに関する課題において、自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的や意図に応じて理由を明確にしながらか自分の書き表し方を工夫したりすることなどに対して力をつけている傾向が見られた。一方で、目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したりするなど、読むことに対して課題が見られる傾向があった。

〔算数〕

本校の平均正答率は、全国平均値を約1ポイント上回る結果であった。特に数と計算の領域において、示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断できる力や、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算することができる力に伸びが見られた。加えて、データ活用の領域において、データを二次元の表に分類整理することができる力を付けていることも明らかになった。一方、記述式で解答することに課題があることや、複数の図形を組み合わせた図形の面積について比べる際に量の保存性に基いて解答できていないという点が明らかになった。

質問紙調査より

学校に行くことが楽しいと肯定的に捉えている児童が9割を超えており、日常の学校生活をのびのびと楽しく送っていることがうかがわれる。また、自分の思いや感じ方を言葉で表すことや、自分とは違う意見について考えることを肯定的にあるいは好意的に捉えている児童の割合が全国平均値よりも高い。これは、日常の授業において言語活動を重視し、児童同士で話し合う活動を豊富に持っていることの表れと考えられる。一方、自尊感情に関わる問いや目標に向かって粘り強く取り組むことに関わる問いに対しては、全国平均値よりも肯定的な回答が低い傾向が見られ、本校児童の課題が表れていると考えられる。

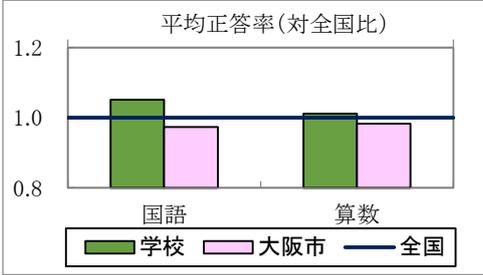
今後の取組(アクションプラン)

教科学習においては、自らの考えを言葉や図や表などに表現する活動、よりよい解決方法について話し合う活動、互いの意見や考えを尊重し聴き合う活動などを大切にし、言語活動の充実を基盤にした授業改善に取り組んでいく。また、道徳科の授業をはじめとして学校全体で取り組む道徳教育のあり方を研究課題とし、全ての教職員で研究活動に取り組んでいく。道徳教育を充実させることによって、自己肯定感や自己有用感を高め、自尊感情を高揚させていくようにする。さらに、自己の目標を達成するための多様な方法を準備したり、工夫したりするようにし、個々の児童の実態や課題に応じた活動が展開できるようにする。その方法の一つとして一人一台端末によるICT環境の充実や活用が考えられる。児童がさまざまな解決方法を工夫し、自己の課題解決に粘り強く取り組み、それを効果的に支援できるようにする。そして、児童を認め、褒め、励まし、児童とともに感動し喜ぶ教職員であるよう全教職員で取り組んでいく。

【 全体の概要 】

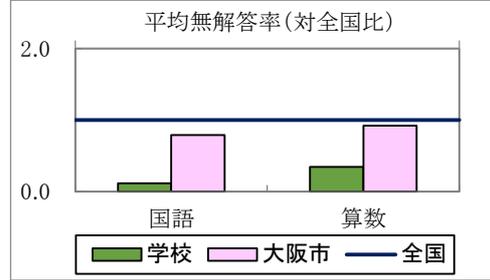
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	68.0	71.0
大阪市	63.0	69.0
全国	64.7	70.2



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	0.5	0.9
大阪市	3.4	2.4
全国	4.3	2.6



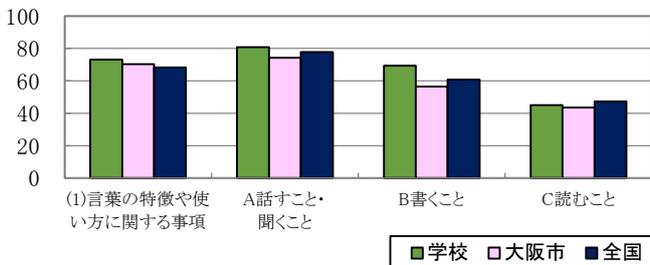
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	6	73.1	70.3	68.3
(2)情報の扱い方に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
A 話すこと・聞くこと	3	80.9	74.3	77.8
B 書くこと	2	69.4	56.4	60.7
C 読むこと	3	45.1	43.5	47.2

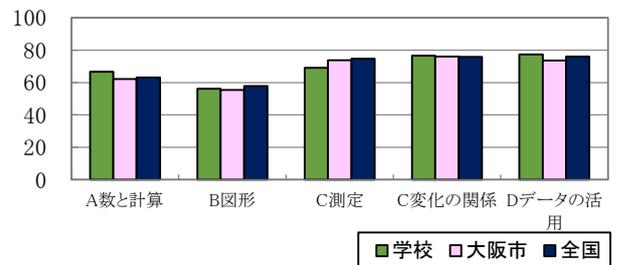
【 算数 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	4	66.7	62.2	63.1
B 図形	3	56.2	55.4	57.9
C 測定	3	69.1	73.8	74.8
C 変化と関係	3	76.5	76.0	75.9
D データの活用	5	77.4	73.6	76.0

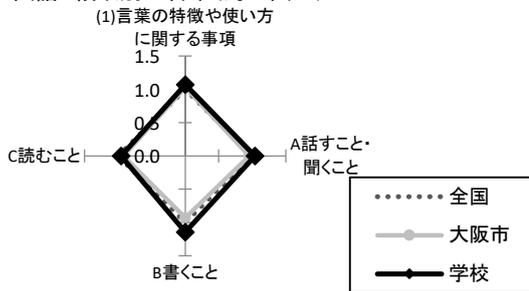
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



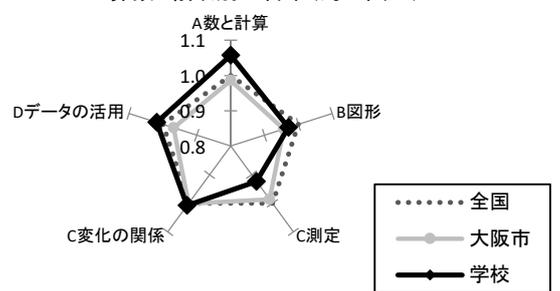
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



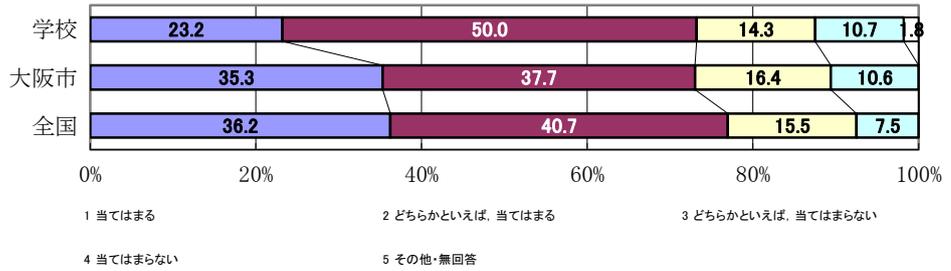
児童質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

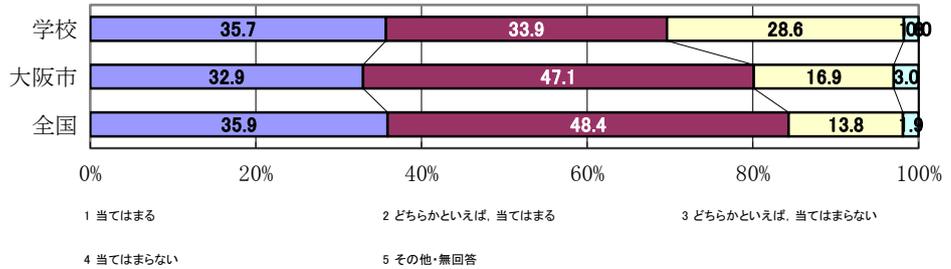
6

自分には、よいところがある
と思いますか



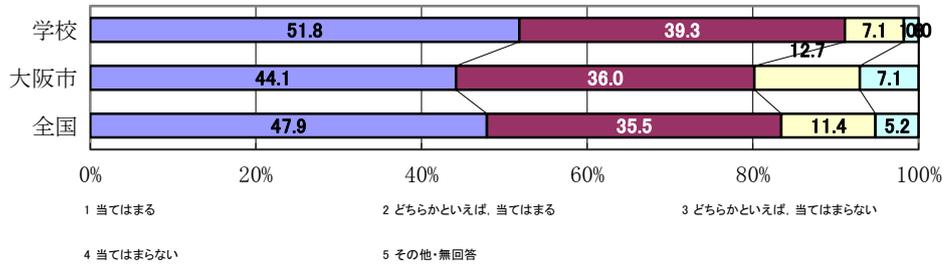
8

自分でやると決めたことは、
やり遂げるようにしていますか



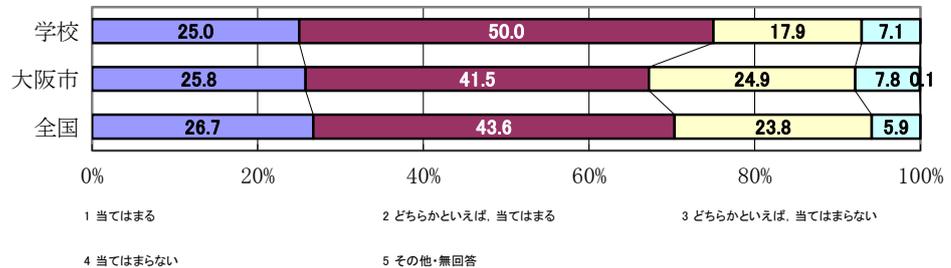
13

学校に行くのは楽しいと思
いますか



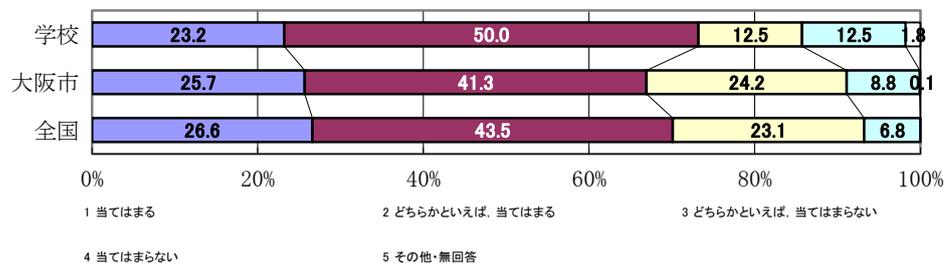
14

自分の思っていることや感
じていることをきちんと言
葉で表すことができますか



15

自分と違う意見について考
えるのは楽しいと思いま
すか



学校質問紙より

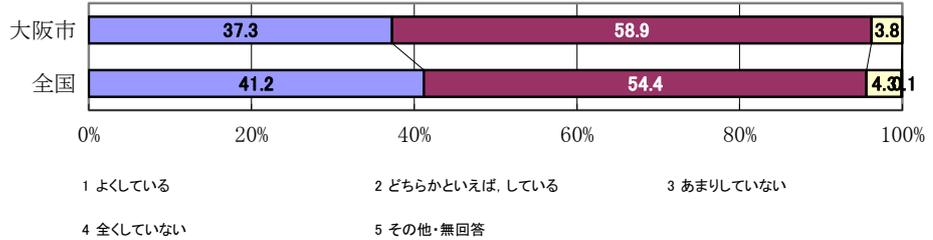
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

21

言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか

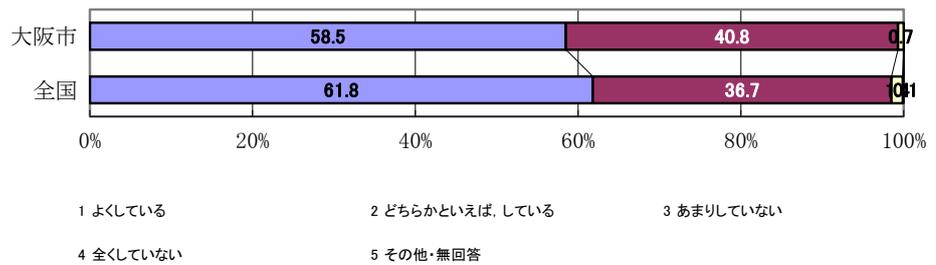
学校 「どちらかといえば、している」を選択



22

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか

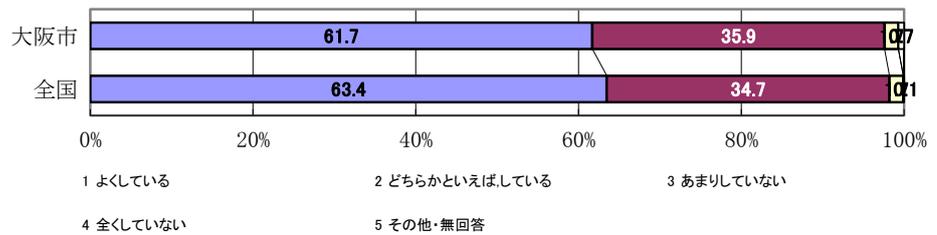
学校 「よくしている」を選択



23

授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか

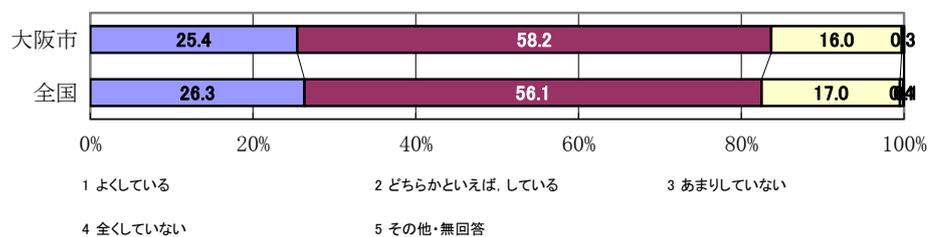
学校 「よくしている」を選択



24

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



26

教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

